



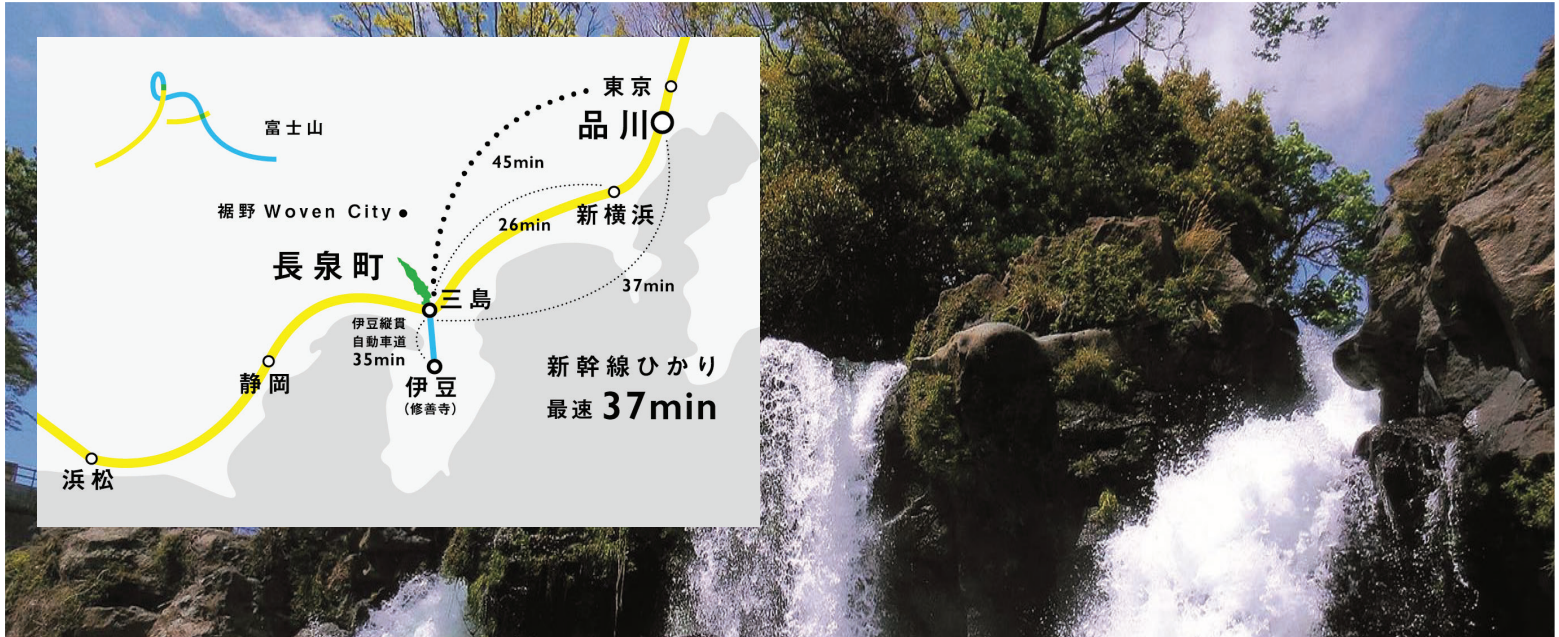
ちょうどいいがいちばんいい

いきいきとした
暮らしを支える
優しいながいずみ

令和6年度地域づくり加速化事業
東海北陸ブロック研修会

長泉町生活支援体制整備事業

社会福祉法人長泉町社会福祉協議会
第1層生活支援コーディネーター
渡邊 麻由



長泉町概要

R6.4.1現在
静岡県内で最も低い高齢化率9,771人／43,513人 22.5%
県内市町別人口は19位(35市町中) 地域包括支援センター2ヶ所
小学校3校／中学校2校／高等学校1校 県内合計特殊出生率第1位
県内唯一の自立持続可能性自治体
県内で3番目に小さい市町(35市町中) 社会福祉法人数8法人



長泉町生活支援体制整備事業

平成30年度に事業開始

社会福祉協議会に第1層1名、第2層小学校区ごと計3名生活支援コーディネーターを配置

「助け合いフォーラム」を開催し住民手上げにより小学校校区ごと計3つの第2層協議体を設置
住民主体による有償の支援活動が立ち上がり運用を開始



生活支援コーディネーターとしてのかかわり

社会福祉協議会が運営する介護保険サービス(認知症対応型通所)で10数年従事していた経験を活かし、平成30年度に事業開始に合わせ第1層生活支援コーディネーターを拝命。認知症初期集中支援チームを担当経験あり。現在は認知症サポーターステップアップ研修講師を務め、町の高齢者施策にかかわる。
介護福祉士、社会福祉士、介護支援専門員、DWA登録員



福祉関係団体・機関と協議

第1層協議体は1つで、構成員には民生委員児童委員協議会、老人会(シニアクラブ長泉)、シルバー人材センター、地域包括支援センターなど多様な団体・機関が参画

テーマごとに行政の関係課に依頼をし情報交換を実施、テーマにあったアドバイザーに方針の確認や、目線合わせを行う場

令和6年度テーマ

- 第1回 総合事業サービスB通いの場について
- 第2回 行政関係各課連携に向けた生活支援体制整備事業共有
- 第3回 移動支援に係る第2層進捗状況の共有
- 第4回 地域づくり加速化事業リエイブルメントのこれから

話し合いの場は小学校区ごと

第2層協議体は小学校区に1つ設置

協議体構成員は手上げによる自由参加。助け合い意識の高い地域住民が参加



■北小学校区

山間地のため外出・買い物には車両が必要。自然豊かで同居率も高い。居場所づくりに向けて富士市へ視察。移動支援が安定。



■長小学校区

スーパーやコンビニ、ドラッグストア病院など充実している。アパートやマンションも多い。当事者が参加し困りごとを共有。



■南小学校区

東海道新幹線三島駅周辺はマンション区が多い。一部スーパー等が遠いエリアもある。移動販売や地区の活動を共有。

地縁活動

■移動販売

スーパーの遠い地区の民生委員が役割分担をし移動販売車がくる日は協力し高齢者の買い物を見守っている



■地区活動

小地域福祉活動等の活動に生活支援コーディネーターが講師などの調整を行い運営者支援を行っている



■男の料理教室

地区の中で新たに立ち上がった料理教室。生活支援コーディネーターが栄養士の講師を調整し活動を支援している



■ラジオ体操

介護予防やコミュニティなどを目的に、生活支援コーディネーターと運営者が協力し長期的に継続している



有償の支援活動

■傾聴

各協議体での話し合いの場から誕生した傾聴ボランティア。既存の傾聴ボランティア団体と連携しながら、在宅での傾聴ボランティアを開始



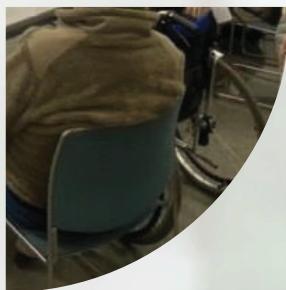
■買い物支援

社会福祉法人の車両と職員の協力のもと月2回の買い物支援を実施



■ゴミ出し

主に介護支援専門員からの依頼が多くなっている。同地域のボランティアによる活動で支援活動数は増加傾向にある



■病院への通院

通院が必要な方への支援を実施。運転ボランティア講習会受講者が運転ボランティアを実施。

※運営費は助成金、寄付金収入と相互会員収入

わたしたち地域のこ

活動の充実に向けた手段(令和6年度実施内容から)



■広報誌で紹介

町の広報が年2回活動紹介フォーラムの開催やボランティア募集などの記事を掲載



■フォーラムの開催

生活支援体制整備事業について周知長泉町の課題や有償の支援活動について活動者によるインタビュー形式で紹介



■小学校や中学校、地域で活動を紹介

活動者から取り組み内容を地域や学校で報告住民主体(自分たちで決める)だからこそ自分たちの言葉で説明



■活動の場の創出

学校から依頼があり学校を拠点に介護予防の一環に畑作ボランティアを結成



■他市町の活動者との情報交換

活動者同士の情報交換地域の実情は異なるが、同じ志を持つボランティア同士の共感の場に



■活動の場の見学

「通いの場」「居場所」「サロン」言葉のイメージがつきにくい活動は、目で見て体験。活動のヒントに



■勉強会の開催

移動支援に係る法的なことや、生活支援体制整備事業の目指すことは何度も繰り返し理解



■養成講座の開催

ニーズのあった移動支援運転ボランティアは養成講座を開催し、安心安全を確保

福祉専門職・団体等との連携

生活支援コーディネーターはあらゆる機関と連携し関係機関と情報交換をしています。

地域包括支援センターとの連携 介護支援専門員との連携

地域ケア会議への出席
有償の支援活動から個別のケースを地域包括支援センターにつなぐ
協議体への参画
居宅介護支援事業所を訪問

民生委員や シニアクラブ(老人クラブ)等との 連携

アンケート調査の協力
インフォーマル活動の紹介
協議体にも参画をしていただき地域課題を共有している

社会福祉法人との連携

地域における公益的な取り組みとして車両・会議室とともに職員が参画し人的及び環境を地域へ

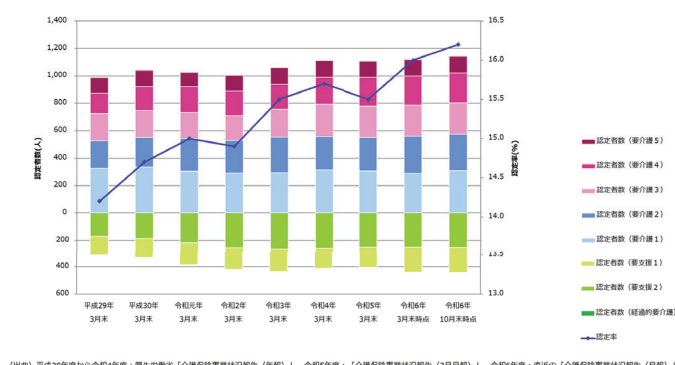
ほか専門職等との連携

移動に係るアンケート実施・聞き取り同行
認知症地域支援推進員との連携
移動支援に係る企業(ダイハツ)との打ち合わせ

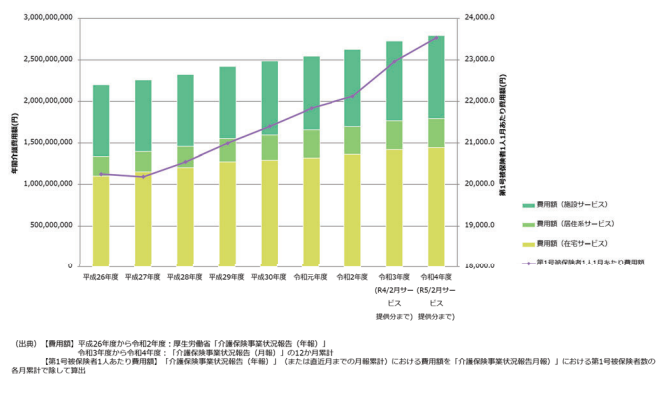
県内で最も高齢化率の低い長泉町が抱える高齢者課題…

サービス給付費も高く、介護保険料もこの3年で700円増加

長泉町の要介護（要支援）認定者数、要介護（要支援）認定率の推移



長泉町の介護費用額の推移



生活支援体制整備事業実施主体課より

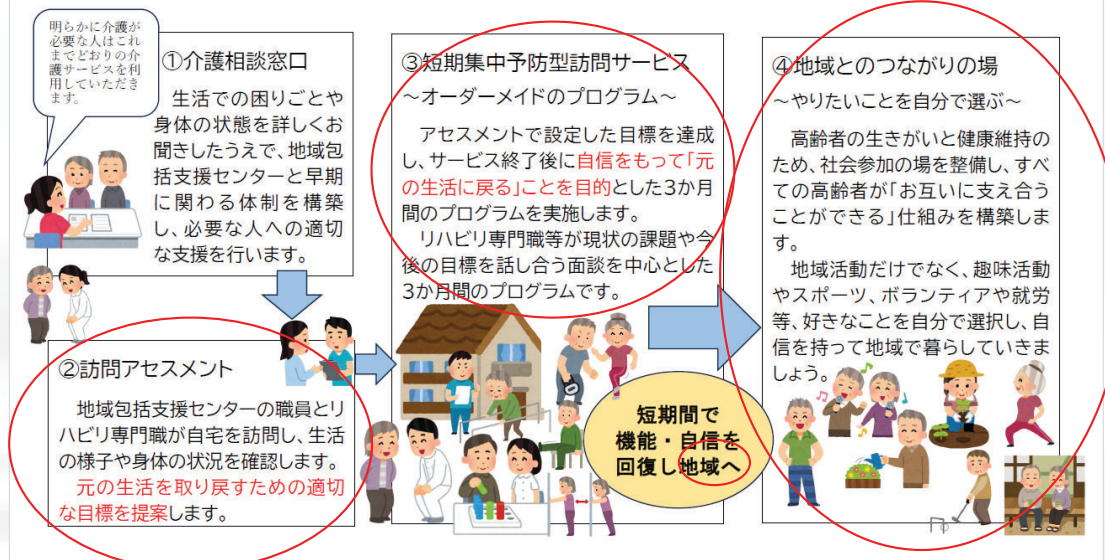
- ・困っていれば介護保険のサービスを利用、過剰にサービス利用につなげてしまっている。
- ・介護保険は「困っているからサービスを使う」と家族が申請をすることが多く、サービスを使うことが考え方の標準となっている。
- ・介護保険サービスを申請して非該当が出ても、事業対象者になれば要支援1相当と同じデイ、ヘルパーを使える仕組みになっており、サービスを利用させることを自ずと進めていた。
- ・町内及び近隣市町の福祉サービス事業所が充実しており小さな町のため他市町のサービスを使いやすい。

地域づくり加速化事業モデル事業開始：令和7年度本格実施 生活支援コーディネーターの関わり

～長泉町の高齢者支援を新たな取り組みを開始します～

長泉町の高齢者支援は「いきいきとした暮らしを支える 優しい ながいずみ」を目標に、今後創設予定の「短期集中予防型サービス」を中心としたサービス体系へと見直しを行っていきます。

介護サービス等の支援が一度必要となった人でも「元の生活に戻る」ことを目指す仕組みを構築していきます。



長泉町長寿介護課：説明資料より

リエイブルメント事業 短期集中予防サービスの創設

リエイブルメント事業で元のできる力を取り戻した方が
地域における活躍の場につながり、生き生きとした暮らしを続けられる
(生活支援コーディネーターが包括等と連携しながら調整)

リエイブルメント事業と並行して生活支援体制整備事業や
サービス・活動B（住民主体サービス）の充実、地域の居場所づくりなども広げていき、

リエイブルメント事業でできる力を取り戻した人が
いきいきとし暮らしを続けられるよう、通いの場、活躍できる場を作っていく。

令和7年2月13日開催第4回第1層協議体

リエイブルメント事業をきっかけに再スタートの予感

過去一番活発な話し合い

事業実施7年目で意識統一を実感

事例：主訴「買い物に困っている」

社会参加による変化1

外出が楽しみに

高齢による身体的な不安があり買い物が困難であった方が
地域の方々の協力により「買い物」の困りごとは解消、
本人は「買い物」が楽しみとなり生活の質が向上した

社会参加による変化2

サポート体制

買い物ボランティアの地域の方々がこの方の認知症のような症状に気づいた
安心して在宅生活(買い物含む)が継続できるようサポート体制を構築
※買い物ボランティアに認知症サポーターの協力を得る調整を生活支援コーディネーターが実施



取り組みの効果

学生が知った「わたしの地域のこと」

「高齢者へのボランティア活動をしたい」高校生が 移送支援サービスの取り組みに参加
「助け合いの意識の高い地域に住んでいることがわかりました」

社会性+役割＝社会参加
生活支援コーディネーターは
個を地域とつなぐ
地域の意思決定支援

ご清聴ありがとうございました

社会福祉法人長泉町社会福祉協議会
TEL 055-988-3920